

Summer 2016

Vol. 31

JAPANESE RED CROSS  
SOCIETY FUKUOKA  
PREFECTURAL CHAPTER  
THE SPECIAL NURSING  
HOME  
HOUJYUEN

豊 寿 園

FRUIT FULL TREE

豊かな樹

TOPICS

HOUJYUEN'S ALBUM

CARE MEMO

MORE CROSS

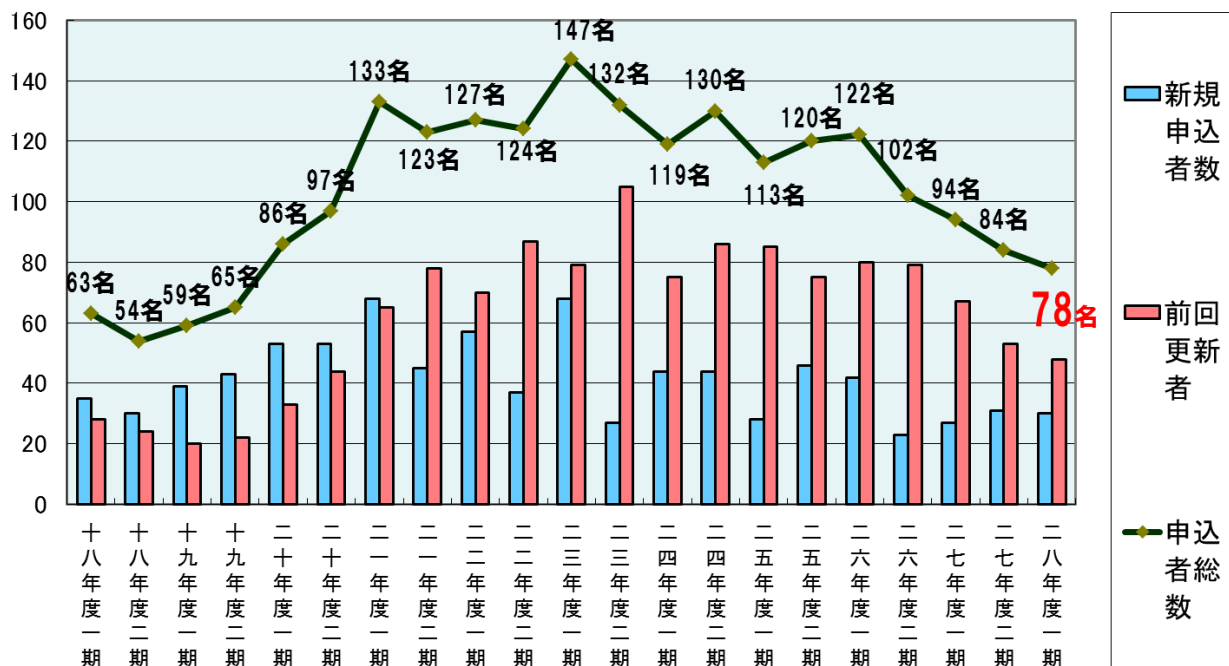
SPECIAL SECTION



# トピックス

## 入所待機者が決定しました！

5月16日に、外部の第三者委員を交え、豊寿園に入所のお申し込みをいただいた方々の待機順位を決定する入所検討会議をおこないました。今回、豊寿園にお申し込みをいただいた方々は78名でした。待機順位の進捗は、豊寿園のホームページで随時更新していますので、是非、ご確認ください。



## 家族会総会が行われました！

6月5日に、豊寿園家族会の今年度総会が行われました。平成27年度の決算や今年度の予算および活動内容が審議され、今年度も敬老会での記念品贈呈や、「看取り介護」をテーマに、11月11日に勉強会を開催する事が決議されました。

## 全国赤十字老人福祉施設の研修会が行われました！

6月16日、17日の二日間で、全国にある9つの赤十字が運営する特別養護老人ホームの職員を対象にした研修会が豊寿園で行われました。当日は、福岡大学病院の合馬先生による「レビー小体型認知症」についての講演や、各部門の情報交換などが行われました。





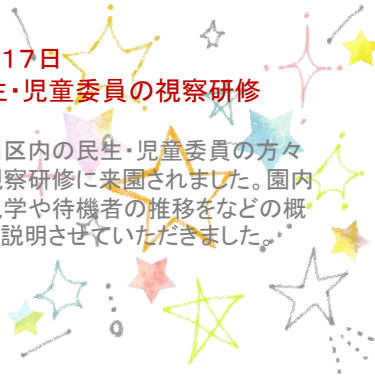
5月22日  
門司北みなと祭り  
祝賀パレードに参加

門司区赤十字奉仕団、  
青少年赤十字加盟校  
の皆さんとパレードに  
参加して赤十字を  
PRしました。



5月17日  
民生・児童委員の視察研修

門司区内の民生・児童委員の方々が視察研修に来園されました。園内の見学や待機者の推移をなどの概況を説明させていただきました。



きつと  
クロス!  
計画

5月7日  
門司港レトロで地域清掃活動

統一ボランティアデーの活動として、北九州赤十字看護奉仕団じゅんの会の皆さんと一緒に、北九州市内の観光名所である門司港レトロの清掃を行いました。



## お花見



4月 園内で満開になった桜を見ながらカラオケや昼食をお楽しみいただきました。



## 買い物



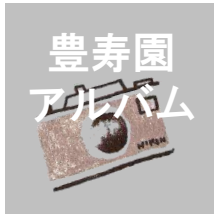
4月 セブンイレブン新門司インター店さんにご協力いただき、園内でお買い物をお楽しみいただきました。

## バスハイク



5月 バスハイクで農事センター、サンリブシティへ出かけました。





## 開園記念行事



6月5日 豊寿園は20年目を迎えました。  
ご家族と演芸会やデザートビュッフェをお楽しみ  
いただきました。

## ドライブ



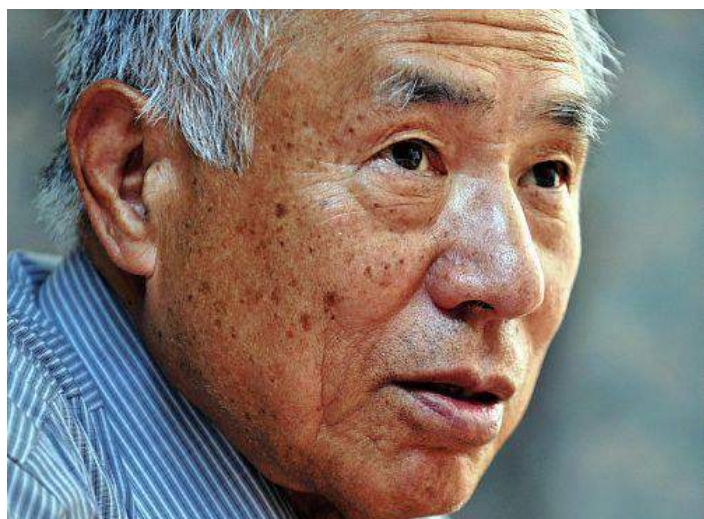
6月 デイサービスの皆さんと近くのスーパー  
へお買い物にいきました



5月 新門司保育所の年長組さんとの  
今年度第1回目の交流会を行いました。

## 新門司保育所交流会

## 石飛幸三先生 講演会開催のお知らせ



いしとび・こうぞう 特別養護老人ホーム「芦花ホーム」常勤医。  
1935年、広島県生まれ。慶大医卒。東京都済生会中央病院副院長  
などを経て、2005年から現職。著書に『「平穏死」のすすめ』  
(講談社)などがある。

豊寿園では、昨年度より園内で利用者様の安らかな最期をお看取りする「看取り介護」に取り組んでいます。

このたび、職員研修の一環として、“「平穏死」のすすめ”などの著書でご高名な、特別養護老人ホーム芦花ホームの石飛幸三先生をお招きして下記のとおり講演会を開催することといたしました。

当日は、特養での看取り介護の意義や、先生が携わってこられた看取りの実際などについてご講演いただく予定です。豊寿園の職員のみならず、ご家族や一般の方などへ広くご案内する予定です。詳細は後日、あらためてお知らせいたします。

- 日程 平成28年12月9日(金)
- 場所 ウェルとばた 中ホール  
(福岡県北九州市戸畑区汐井町1-6)



## 人事異動のお知らせ

<7月1日より>

- 荒木 美奈 デイサービス管理者 ⇒ デイサービス管理者兼居宅介護支援専門員
- 城戸 匡美 居宅介護支援専門員 ⇒ デイサービス生活相談員兼介護職員

## あとかぎ

おかげさまで6月5日で豊寿園は20年目を迎えました。今年度の豊寿園は、イベントの予定が盛りだくさんです。今号でもお知らせしました、日赤職員の研修会が終わったと思えば、次は園内行事の「敬老会」「秋祭り」が続く予定です。そして、上記でお知らせしていますように、12月には石飛先生の講演会も控えています。

各イベントの準備は本当に大変ですが、利用者様やご家族、またご参加いただく皆さんに喜んでいただくため、職員が一致団結して準備をしています。

職員が頑張って準備した各イベントはすべて、この豊かな樹やホームページ等でもご紹介していきます。今後も豊寿園の広報活動に乞うご期待ください。

平成28年度広報委員 森 英樹



今回のCOVER GIRL

今回表紙を飾ってくれたのは、事務課主事の辻畑みのりさんです。大学を卒業したばかりの社会人1年生です。毎日の慣れない勤務の中、お休みを返上して、屋外での撮影に参加してくれました。

# あなたと向き合った日々

## HOJYUEN × Family

今回、荒木施設介護係長のインタビューを受けてくださったのは、椎葉 藤江 様です。ご自宅での介護を経て、現在のご主人が豊寿園にご入所されています。そんな、椎葉様にご自宅での介護についてお聞きました。



今回インタビューに応じてくださった  
椎葉 藤江 様  
グループホームへの入居や在宅介護を経て豊寿園に入所されるまでの体験談を語ってくださいました。

— 思うように生活できない苛立ち等、本人自身の葛藤があったのでしよう —

最初は軽いうつ病でした。今から9年前、お寺さんに行った時、お坊さんから色々話を聞いても理解しにくかったり、上手く対応できなくて…。気になったので近所のクリニックを受診したんですが、検査結果は目立った異常は見つかりませんが、検査の結果から『何でそんな所に行かないののか！』と本人が嫌がったので再診するのに1年半程かかりました。

その間は、大きな声で怒ることが多くて介護が大変でした。思うように生活できない苛立ち等、本人自身の葛藤があったのでしよう。昔は決まったコースを散歩するのが日課になっていたのですが、一人で帰って来れない時があって、今思えば、その頃から認知症が進行していたんだらうなと分ります。デイサービスを利用するようになった頃は、上着の上から肌着を着たりと1人で服が着られなくなると、送り出す準備が大変でした。そんな様子の主人を自宅で介護をしていました。私自身の体調がすぐれなくなると、息子達の勧めもあって、入居させてくれるグループホームを探す事になりました。

— 最初のうちは『徘徊』なんて頭になかったです。 —

いざそう決めてから、色々な所を見て回りました。どこも色々と違いがありましたが一長一短なんですね…。

結局、本人が良いと言っていた所に1年程入居していましたが、でも、本人がベッド上に立ち上がった時、他の人の部屋に誤って入る等の困り事が出てきた時や、胸椎を圧迫骨折した時に、そちらの職員さんの説明や対応に釈然としませんでした。それで「やっぱり、できる限り家で介護を続けよう」と思って自宅に連れて帰ることにしました。

家では元々本人の部屋が2階にあったのですが、1人で上がると階段から落ちないかと心配でした。そう言えば、真夏にありつたけの布団を敷いて、その上に汗だくで寝転がりながらギターを弾いているのを見た時は、「これが認知症の症状なんだ…」と改めて思いましたね。

最初のうちは『徘徊』なんて頭になかったんです。ある日、自宅からいなくなると、近所の方から「私の帽子を被って1人で歩いてるのを見た」と連絡を受けた時は、皆で手分けして探し回ったことがあります。結局その時は、たまたま自分で帰ってきたのですが、しよっちゆう鳴っていました。同じような事が繰り返してありました。今思えば、どの時も、遠方に住んでいた本人の兄弟と電話で話しをした後だったんです。本人は、遠方に住んでいる兄弟を探し歩いてたのかもしれないですね。近所の方も、ご親族の認知症介護の経験があったそうで、「何かあったらいつでも相談してね」と言ってくれて、とても理解のある方達で本当に助かりました。

— 『そうだ…入所が決まったんだ。家に居なかつたんだ…』と… —

徘徊は、家で介護を続けるうえで本当に大きな負担となります。ほんのわずかな時間、目を離れた隙に1人で出かけて行ってしまふんです。本人の安否だけでなく、他の人に迷惑をかけることも心配でなりませんでした。

幸い、ケアマネさんも良い人にめぐり会えて、その紹介で豊寿園のデイサービスやショートステイを利用するようになり、その後、豊寿園に入所することができました。入所が決まったと連絡を受けた時は、正直、ホッとしたのと、未来が見えた気がして気持ち楽になりました。豊寿園からその連絡をもらった夜、本人はショートステイ中だったんですが、家でどうとうとしていて、ハツと目が覚めて「主人が居ない！警察に電話…」と受話器をあげて、「そうだ…入所が決まったんだ。家に居なかつたんだ…」と、混乱したことを覚えていました。

豊寿園は家族も行きやすい場所です。面会が終わって帰る時には、職員さんが「あれがとうございまして」と、声をかけてくれますが、本当は私が「ありがとう」と思っています。



椎葉様が会社勤めの頃のお写真。ギター等、多趣味な方だったそうです。

# THE HISTORY OF HOJYUEN

豊寿園の歴史を彩ってきた職員達を、順番にご紹介していくコーナーです。  
3回目は、平成13年に入職した職員3名をご紹介します。



## — 同期入職者の紹介 — You were young in those days.

大森 久嗣

デイサービス生活相談員兼介護職員

28歳で嘱託職員として豊寿園に入職。平成24年からは生活相談員、平成27年からデイサービスにて勤務。趣味はゴルフ。

川 寄 明

特養棟2階介護係副主任

29歳で嘱託職員として豊寿園に入職。平成26年からは副主任に。平成27年からは2階にて現職。野球とゴルフが趣味の1児のパパ。

森 英 樹

介護長兼生活相談係主任

21歳で嘱託職員として豊寿園に入職。平成24年からは一時、東京都にあるレクロス広尾で勤務。平成26年度に豊寿園へ戻り現職。

座

談

会

T A L K

×

T A L K

— 入職当時と今を比べ、どこが、どう変わりましたか？ —

川寄 明 : 当時は何も分からないまま怖い(?)先輩たちの言うとおりに業務をしていたように思います。今は、指導する立場にありますが、年齢の違う後輩たちに伝える難しさを感じています。

大森久嗣: 体型が太って変わりました(笑)。あとは、昔と比べて多角的な視点をもって介護する事の大切さに気付けたように思います。



— これから豊寿園で成し遂げたいことは？ —

大森久嗣 : 地域に根差した施設であることと、利用者の方に、豊寿園を利用して良かったと思える施設を目指していきたいと思っています。

川寄 明 : 地域に選ばれる施設、職員が働きやすい施設であるように頑張りたいと思います。



# 介護一口メモ

C A R E M E M O

今回のテーマはこれまでもたびたび取り上げてきました「脱水」です。いよいよ本格的な夏がやってきましたが、きちんとした対策をとって体調管理に努めましょう。

## 脱水症状とは。

脱水症とは体にとって不可欠な体液が不足した状態のことです。単なる水分の不足ではなく、電解質も同時に失われた状態のことです。水分と電解質は生命維持に不可欠な働きをしています。

水分が喪失すると→血液の不足、血流の低下→集中力の低下、食欲不振、電解質の喪失→骨や筋肉から電解質が喪失→脚のつり、しびれ・脱力といった症状があらわれる危険があります。

### 脱水症状のサインとは。

- ①口の中が乾燥している
- ②口の中が白いものに覆われている
- ③舌の赤身が強い
- ④皮膚に張りが無い
- ⑤舌の表面に亀裂がある
- ⑥手足が冷たくなっている

などがあげられます。  
項目のうち2つ以上あてはまる場合は脱水症を疑います。

これらの脱水症状が出るまえに対策をとっていくことが大切です。

- ①なるべく暑さを避ける服装になる
- ②扇風機などを使い、部屋の空気を入れ替える
- ③我慢してクーラーを止めるなど、無理な節電をしない
- ④高温多湿をさける
- ⑤規則正しい栄養バランスと量考えた食事
- ⑥水分摂取はカフェインのないものが好ましく、また塩分も一緒にとりましょう（お茶なら緑茶よりも麦茶、OS1などの経口補水液）

脱水に気をつけて、猛暑を乗り切りましょう！

資料引用：日本赤十字社「平成28年熊本地震日本赤十字社の活動」より



207班 約1,600人

派遣救護班数と人数



654セット

緊急セット配布数



約5,000人

診療傷病者数



22,480枚

毛布配布数



4班

dERU(仮設診療所)設置数



11,230枚

ブルーシート配布数



150人

こころのケアチーム派遣人数



7,551セット

安眠セット配布数

救護班派遣数(6月14日現在)

救護班(6人)基本編成	
医師(班長)	1人
看護師長	1人
看護師	2人
主事	2人

第4ブロック支部

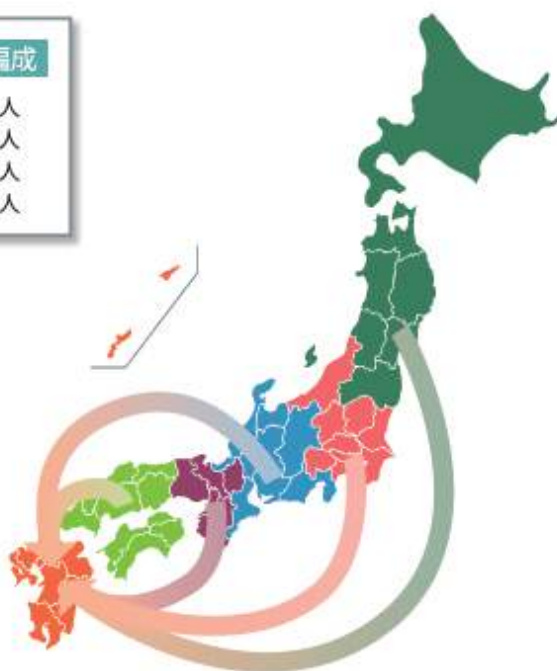
dERU 2班  
救護班 39班

第5ブロック支部

救護班 44班

第6ブロック支部

救護班 70班



第1ブロック支部

dERU 1班  
救護班 13班

第2ブロック支部  
(本を含む)

dERU 1班  
救護班 25班

第3ブロック支部

救護班 16班

たとえ大きな困難が行く手をはばんでも、何度でも立ち上がる底力が、人間にはある。人間は決してひとりじゃない。手を取り合って生きているからこそ強くなれるのだと、私たちは信じています。

## 平成28年熊本地震 日本赤十字社の活動

4月に発生しました熊本地震では、4月14日、16日の2度にわたって最大震度7の大きな地震があり、その後に続く余震による不安から、車中泊やテント泊をされる方が多くいらっしゃいます。

日本赤十字社は発災当日から救護・支援活動を継続。現在は、海外赤十字社などから寄せられた救援金を財源として、避難所などに避難している被災者（特に高齢者や母子などの要配慮者）を対象に、健康支援事業を行っています。

また、避難生活の長期化により、エコノミークラス症候群などで体調を崩す方や、発災から2カ月が経った現在も、先の不安を抱え、こころのケアを必要とされる方が多くいらっしゃいます。

### 「平成28年熊本地震災害義援金」

受付状況 189億6,800万4,958円(358,450件)  
(平成28年6月21日現在 集計確認分)

送金状況 150億7,283万3,443円  
(平成28年6月27日現在)

(熊本県 149億9,809万5,657円 大分県 7,473万7,786円)

お寄せいただいた義援金は、被害状況に応じて按分され、熊本県、大分県に設置された義援金配分委員会を通じ、全額を被災された皆様にお届けします

日本赤十字社の使命は、“苦しんでいる人を助けたいという思いを結集し、いかなる状況下でも人間のいのちと健康、尊厳を守ること”です。  
皆さまのご支援に支えられて、この思いを胸に活動を続けています。

支援活動が長期化していく中で、豊寿園の職員も現地の災害対策本部の応援要員として活動に参加しました。



荒木 施設介護係長  
(5月3日～6日の期間で現地にて活動)



坂根 在宅介護係長  
(5月15日～19日の期間で現地にて活動)

2016  
Vol. 31

JAPANESE RED CROSS  
SOCIETY FUKUOKA  
PREFECTURAL CHAPTER  
THE SPECIAL NURSING HOME  
HOJUJEN

Summer 2016

Vol.31

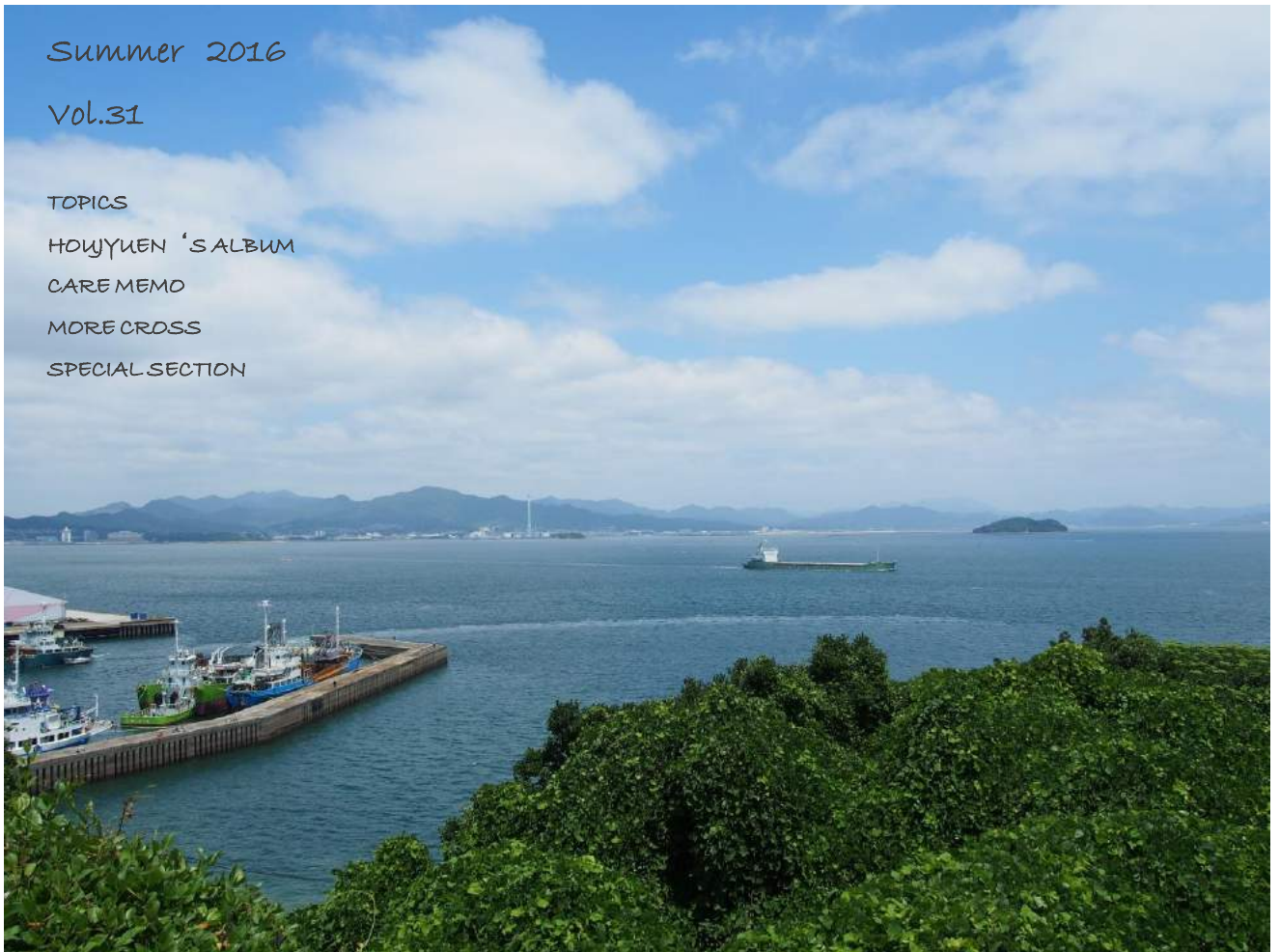
TOPICS

HOJUJEN 'S ALBUM

CARE MEMO

MORE CROSS

SPECIAL SECTION



# FRUIT FULL

# TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA

PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOJUJEN